

お台場旧防波堤（2島）における鳥類のモニタリング調査 春季調査（4月）報告書

2022年6月 一般社団法人お台場海づくり協議会

1. 調査目的

お台場海浜公園水域内旧防波堤 2 島における鳥類の生息環境の保全について検討するために、当地における鳥類の利用状況の現況を把握するとともに、今後の経年変化を把握するための基礎資料とすることを目的とする。

2. 調査対象地域

旧防波堤 2 島及び周辺水域（周辺 50m 程度）

3. 調査期日等

調査期日等を表 1 に示す。

表 1 調査期日等

調査期日	調査時間	天候
令和 4 年 4 月 25 日（月）	8 : 00 ~ 14 : 00	晴

4. 調査方法

各調査項目において、倍率 8~10 倍程度の双眼鏡や倍率 20~60 倍程度の望遠鏡等を必要に応じて使い分けながら調査を実施した。また、上陸後に実施する（2）～（4）の調査については、調査精度と定量性を確保するため、2 島に調査員を 1 名ずつ配置し、2 島同時に実施した。また、補足調査として（5）の調査を行った。

（1） 船上センサス

2 島の 50m 程度沖を船舶により定速で周回しながら、2 島及び周辺を観察し、目視または鳴き声等で確認された鳥類の種名、個体数、行動等を記録した。

（2） ラインセンサス

2 島の岸沿いを縦断するセンサスルートを設定し、時速 1~2km 程度の速度で歩きながら目視または鳴き声等で確認された鳥類の種名、個体数、行動等を記録した。センサスルートは各島に 1 本を設定し、観察範囲は片側 50m（両側 100m）とした。

(3) 定点観察調査

2島の各2点に眺望のよい定点を設定し、目視または鳴き声等で確認された鳥類の種名、個体数、行動等を記録した。観察半径は50m程度、調査時間は各30分間とした。

(4) 任意観察調査

2島を任意に踏査し、目視または鳴き声等で確認された鳥類の種名、個体数、行動等を記録した。

(5) その他

● 自動撮影カメラによる調査

第5回秋季調査(※調査回の定義については後述する。)においてホンダタヌキのため糞が確認されたことから、同回の冬季調査から自動撮影カメラを西島に1台設置した。今回、回収するデータの撮影期間は前回調査から95日間であった。(第7回冬季調査～第7回春季調査)。

● その他の生き物の記録

鳥類調査時に特記すべき生き物が確認された場合は、種名、個体数、行動等を記録した。



船上センサス

ラインセンサス

定点観察調査

任意観察調査

写真 1(1) 各調査手法における調査風景



写真 1(2) 各調査手法における調査風景

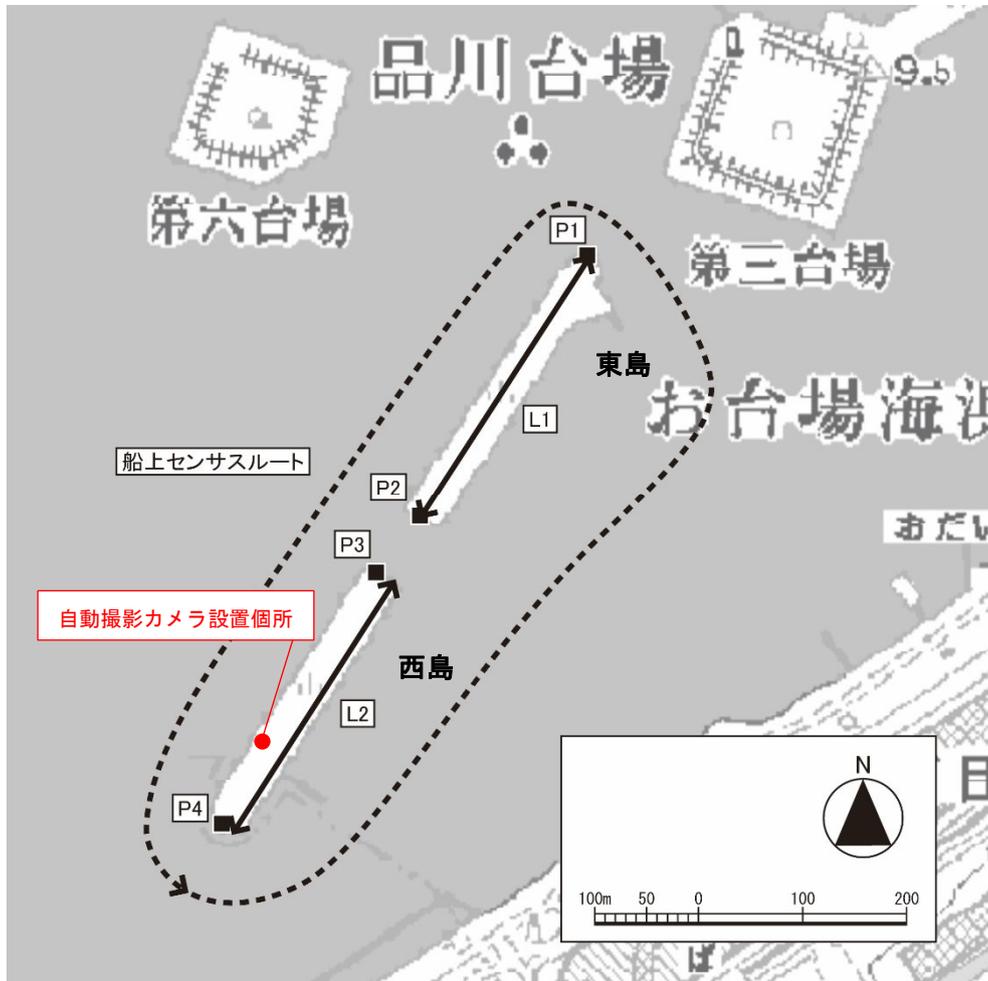


図 1 調査地点

5. 評価方法

(1) 調査回の定義

各調査結果をとりまとめ、過去の調査と比較をすることで、今回の調査結果の評価をした。調査回の定義を表 2 に示す。今回は第 7 回の春季調査にあたる。

表 2 調査回の定義

調査回	調査時期
第 1 回	平成 27 年夏季～平成 28 年春季
第 2 回	平成 28 年秋季～平成 29 年夏季
第 3 回	平成 29 年秋季～平成 30 年夏季
第 4 回	平成 30 年秋季～令和元年夏季
第 5 回	令和元年秋季～令和 2 年夏季
第 6 回	令和 2 年秋季～令和 3 年夏季
第 7 回	令和 3 年秋季～令和 4 年夏季(予定)

(2) 重要種の選定根拠

重要種の選定根拠を表 3 に示す。これらのうち、いずれかに該当する種を重要種として記録した。

表 3 重要種の選定根拠

No.	選定資料	カテゴリー
①	「文化財保護法」(昭和 25 年、法律第 214 号)	特天:特別天然記念物 天 :天然記念物
②	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」 (平成 4 年、法律第 75 号)※以下、種の保存法と記す	国内:国内希少野生動植物種 国際:国際希少野生動植物種
③	「環境省レッドリスト 2020 鳥類」(令和 2 年、環境省) ※以下、環境省 RL と記す	EX:絶滅 EW:野生絶滅 CR+EN:絶滅危惧 I 類 CR:絶滅危惧 I A 類 EN:絶滅危惧 I B 類 VU:絶滅危惧 II 類 NT:準絶滅危惧 DD:情報不足 LP:絶滅のおそれのある地域個体群
④	東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)2020 年版 『東京都レッドリスト(本土部)2020 年版』 (令和 2 年、東京都)※以下、東京都 RL と記す	EX:絶滅 EW:野生絶滅 CR+EN:絶滅危惧 I 類 CR:絶滅危惧 I A 類 EN:絶滅危惧 I B 類 VU:絶滅危惧 II 類 NT:準絶滅危惧 DD:情報不足 LP:絶滅のおそれのある地域個体群 * :留意種

6. 調査結果

(1) 現地調査結果

鳥類確認種目録を表 4、船上センサス結果を表 5、ラインセンサス結果を表 6、定点観察結果を表 7 に示す。

- 現地調査の結果、8 目 18 科 26 種が確認された (表 4)。
- 確認種の半数以上は水域及びその周辺に生息する鳥類であり、カルガモやユリカモメ、ハクセキレイ等の 15 種が確認された。島内では、森林及びその周辺に生息するシジュウカラやヒヨドリ、メジロ等の 5 種確認されたほか、都市部で見られるツバメやスズメ、ドバトの 3 種、様々な環境で見られるキジバトやトビ、ハシブトガラスの 3 種が確認された (表 4)。
- 渡り区別にみると、最も多かったのが留鳥 (ある地域で一年中見られる種) であり、アオサギやヒヨドリ、カワラヒワ等が確認された。次いで冬鳥 (ある地域で冬に見られる種) のスズガモやセグロカモメ、アオジ等が、その他、夏鳥 (ある地域で夏に見られる種) のコチドリやツバメや、旅鳥 (ある地域で一時的に見られる種) のチュウシャクシギやキョウジョシギが確認された。
- 重要種はスズガモ、カンムリカイツブリ、ダイサギ、コサギ、コチドリ、チュウシャクシギ、イソシギ、キョウジョシギ、ウミネコ及びトビの合計 10 種が確認された (表 4)。島内では、護岸及び砂地で採餌及び休息をするイソシギ、護岸にとまるコチドリおよびチュウシャクシギ、護岸で休息をするキョウジョシギが確認された。島外では、海域で採餌するカンムリカイツブリが確認された。島内外では、護岸で休息及び海域で採餌をするスズガモ、護岸で休息及び上空を通過するウミネコ、上空を通過するダイサギ、コサギ及びトビが確認された。
- 外来種はドバトが確認された (表 4)。
- 確認個体数が最も多かった種はカワウであった。本種は、船上センサスにおいて両島で合計 155 個体 (表 5)、ラインセンサスでは合計 117 個体が確認され、優占度は東島で 85%、西島で 50%を占めた (表 6)。定点観察調査では合計 95 個体 (表 7) が確認された。主に常緑広葉樹にとまる個体や上空を通過する個体が確認され、両島で巢内雛も観察された。その他、海域で遊泳、護岸で休息する個体が確認された。
- カワウに次いで確認個体数が多かった種はカワラヒワであった。本種は、船上センサスにおいて両島で合計 1 個体 (表 5)、ラインセンサスでは合計 37 個体が確認され、優占度は東島で 7%、西島で 35%を占めた (表 6)。定点観察調査では合計 22 個体 (表 7) が確認された。主に、落葉広葉樹及び高茎草本にとまる個体や上空を通過する個体が確認された。また、サクラ類の新芽やセイヨウアブラナの実を採餌する様子が確認された。
- スズメがサクラ類や広葉樹の根元で昆虫類を採餌する様子が確認された。

(2) 過去調査との比較

それぞれの前回調査（春季）との比較について、表 8 に確認種、表 9 に船上センサス結果、表 10 にラインセンサス結果、表 11 に定点観察結果、表 12 にこれまでの鳥類確認種目録を示す。

- 前回調査と今回調査の確認種数は、第 6 回では東島で 24 種、西島で 20 種、合計 26 種、第 7 回では東島で 22 種、西島で 22 種、合計 26 種であった（表 8）。第 6 回及び第 7 回で共通して確認された種は 22 種と確認種全体の 7 割ほどであり、鳥類相に大きな変化は見られなかった。
- 第 6 回で確認されず第 7 回で確認された種はコチドリ、チュウシャクシギ、キョウジョシギ及びセグロカモメの 4 種であり、第 6 回で確認され第 7 回で確認されなかった種はオオバン、ヤマガラ、ムクドリ及びツグミの 4 種であった（表 8）。コチドリ及びヤマガラはこれまでも不定期的に記録されている種であり一時的に本島や周辺海域に飛来したものと考えられる。ムクドリはこれまでに広葉樹林や高茎・低茎草地、砂礫地で採餌や巣材採集をするために本島を利用しているが、春季においては不定期的に記録されており、今回は調査時に確認されなかったものと考えられる。オオバン、セグロカモメ及びツグミは冬鳥であり、渡去した可能性が高く、確認されなかったと考えられる。チュウシャクシギは今回初記録、キョウジョシギは第 3 回以来の 2 度目の確認となった。いずれも一時的に鳥の島に飛来したものと考えられる。
- 第 6 回より第 7 回で確認個体数が顕著に多くなった種はカワラヒワであった（表 9、10、11）。先述した通り、主に落葉広葉樹林及び高茎草本にとまる個体や上空を通過する個体が観察され、島内に広く分布しているサクラ類やセイヨウアブラナで採餌する個体が多く確認された。

(3) その他

その他方法（自動撮影カメラによる調査及び鳥類調査時の他項目の調査）による結果について鳥類 5 目 5 科 5 種、哺乳類 1 目 1 科 1 種、爬虫類 1 目 1 科 1 種が確認された。なお、自動撮影カメラの記録について、2 月 17 日以降の日付がリセットされている事象が発生しており、2 月 17 日以降の日付については調査（データ回収）日から逆算した。

- 自動撮影カメラの画像を解析した結果、鳥類ではキジバト、カワウ、アオサギ、オオタカ及びハシブトガラスの 5 種、哺乳類ではドブネズミ 1 種が確認された。
- 重要種のオオタカ（環境省 RL：準絶滅危惧、東京都 RL：絶滅危惧 IB 類）が 1 月 28 日、2 月 15 日、3 月 14、15、23 日及び 4 月 2 日に幼鳥及び成鳥雌が撮影され、2 個体のオオタカが旧防波堤を利用する様子が確認された。
- 爬虫類のアオダイショウ（東京都 RL：準絶滅危惧）が東島において確認された。

表 4 鳥類確認種目録

No.	目名	科名	種名	渡り 区分	調査時期		重要種選定基準			
					春季(4月)		①	②	③	④
					東島	西島				
1	カモ	カモ	カルガモ	留鳥	○	○				
2			スズガモ	冬鳥	○	○				*②
3	カイツブリ	カイツブリ	カンムリカイツブリ	冬鳥	○	○				*②
4	ハト	ハト	キジバト	留鳥	○	○				
5	カツオドリ	ウ	カワウ	留鳥	○	○				
6	ペリカン	サギ	アオサギ	留鳥	○	○				
7			ダイサギ	留鳥	○	○				NT
8			コサギ	留鳥	○	○				VU
9	チドリ	チドリ	コチドリ	夏鳥	○	○				CR
10		シギ	チュウシャクシギ	旅鳥		○				VU
11			イソシギ	留鳥	○	○				VU
12			キョウジョシギ	旅鳥		○				VU
13		カモメ	ユリカモメ	冬鳥	○	○				
14			ウミネコ	留鳥	○	○				*①
15			セグロカモメ	冬鳥	○					
16		タカ	タカ	トビ	留鳥	○				
17	スズメ	カラス	ハシブトガラス	留鳥	○	○				
18		シジュウカラ	シジュウカラ	留鳥	○	○				
19		ツバメ	ツバメ	夏鳥	○					
20		ヒヨドリ	ヒヨドリ	留鳥	○	○				
21		メジロ	メジロ	留鳥	○					
22		スズメ	スズメ	留鳥	○	○				
23		セキレイ	ハクセキレイ	留鳥	○	○				
24		アトリ	カワラヒワ	留鳥	○	○				
25		ホオジロ	アオジ	冬鳥		○				
26	ハト	ハト	ドバト	留鳥		○				
合計	8 目	18 科	26 種	-	22 種	22 種	0 種	0 種	0 種	10 種

注 1. 分類、配列等は原則として「日本鳥類目録 改訂第 7 版」(平成 24 年、日本鳥学会)に準拠した。

注 2. 重要種選定基準は表 3 に従った。

注 3. 重要種選定基準④(東京都 RL) *:留意種

*①:準絶滅危惧(NT)に準ずる(現時点では絶滅のおそれはないが、生息環境が減少していることから動向に留意する必要がある)

*②:人為的な環境配慮により個体群が維持されている。

表 5 船上センサス結果

No.	目名	科名	種名	調査時期		合計 個体数
				春季(4月)		
				東島	西島	
1	カモ	カモ	カルガモ	14	15	29
2			スズガモ	9	0	9
3	カイツブリ	カイツブリ	カンムリカイツブリ	2	0	2
4	カツオドリ	ウ	カワウ	115	40	155
5	ペリカン	サギ	アオサギ	5	6	11
6	チドリ	シギ	イソシギ	1	0	1
7		カモメ	ウミネコ	2	0	2
8	スズメ	カラス	ハシブトガラス	2	2	4
9		シジュウカラ	シジュウカラ	1	3	4
10		アトリ	カワラヒワ	0	1	1
合計	6 目	9 科	10 種	151	67	218
				9 種	6 種	10 種

注 1. 分類、配列等は原則として「日本鳥類目録 改訂第 7 版」(平成 24 年、日本鳥学会)に準拠した。

表 6 ラインセンサス結果

No.	目名	科名	種名	調査時期				合計 個体数
				春季(4月)				
				L1(東島)		L2(西島)		
				個体数	優占度	個体数	優占度	
1	カモ	カモ	カルガモ	1	1%	6	7%	7
2	カツオドリ	ウ	カワウ	73	85%	44	50%	117
3	ペリカン	サギ	ダイサギ	1	1%	0	0%	1
4	チドリ	カモメ	ウミネコ	0	0%	2	2%	2
5	スズメ	カラス	ハシブトガラス	2	2%	2	2%	4
6		シジュウカラ	シジュウカラ	2	2%	0	0%	2
7		スズメ	スズメ	1	1%	2	2%	3
8		アトリ	カワラヒワ	6	7%	31	35%	37
9		ホオジロ	アオジ	0	0%	1	1%	1
合計	5 目	9 科	9 種	86	100%	88	100%	174
				7 種		7 種		9 種

注 1. 分類、配列等は原則として「日本鳥類目録 改訂第 7 版」(平成 24 年、日本鳥学会)に準拠した。

表 7 定点観察結果

No.	目名	科名	種名	調査時期								合計 個体数
				春季(4月)								
				東島				西島				
				P1		P2		P3		P4		
				個 体 数	優 占 度	個 体 数	優 占 度	個 体 数	優 占 度	個 体 数	優 占 度	
1	カモ	カモ	カルガモ	2	11%	0	0%	12	18%	10	10%	24
2			スズガモ	1	6%	0	0%	0	0%	0	0%	1
3	ハト	ハト	キジバト	0	0%	1	6%	1	2%	0	0%	2
4	カツオドリ	ウ	カワウ	2	11%	3	18%	37	57%	53	54%	95
5	ペリカン	サギ	アオサギ	2	11%	0	0%	4	6%	1	1%	7
6			ダイサギ	0	0%	1	6%	0	0%	0	0%	1
7	チドリ	チドリ	コチドリ	1	6%	0	0%	0	0%	3	3%	4
8		シギ	イソシギ	1	6%	1	6%	2	3%	0	0%	4
9		キョウジョシギ	0	0%	0	0%	0	0%	5	5%	5	
10		カモメ	ユリカモメ	2	11%	5	29%	0	0%	6	6%	13
11			ウミネコ	2	11%	0	0%	0	0%	2	2%	4
12			セグロカモメ	0	0%	2	12%	0	0%	0	0%	2
13			スズメ	カラス	ハシブトガラス	2	11%	0	0%	1	2%	1
14	スズメ	シジュウカラ	シジュウカラ	1	6%	2	12%	2	3%	0	0%	5
15		スズメ	スズメ	0	0%	2	12%	1	2%	0	0%	3
16		セキレイ	ハクセキレイ	0	0%	0	0%	0	0%	1	1%	1
17		アトリ	カワラヒワ	2	11%	0	0%	4	6%	16	16%	22
18	ハト	ハト	ドバト	0	0%	0	0%	1	2%	0	0%	1
合計	6 目	12 科	18 種	18	100%	17	100%	65	100%	98	100%	198
				10 種	7 種	10 種	10 種	18 種				

注 1. 分類、配列等は原則として「日本鳥類目録 改訂第 7 版」(平成 24 年、日本鳥学会)に準拠した。

表 8 前回調査結果との比較：確認種（春季）

No.	種名	調査時期			
		第 6 回 (R2～R3)		第 7 回 (R3～R4)	
		春季(4月)		春季(4月)	
		東島	西島	東島	西島
1	カルガモ	○	○	○	○
2	スズガモ	○		○	○
3	カンムリカイツブリ	○		○	○
4	キジバト	○	○	○	○
5	カワウ	○	○	○	○
6	アオサギ	○	○	○	○
7	ダイサギ		○	○	○
8	コサギ	○		○	○
9	オオバン	○	○		
10	コチドリ			○	○
11	チュウシャクシギ				○
12	イソシギ	○	○	○	○
13	キョウジョシギ				○
14	ユリカモメ	○	○	○	○
15	ウミネコ	○	○	○	○
16	セグロカモメ			○	
17	トビ	○	○	○	
18	ハシブトガラス	○	○	○	○
19	ヤマガラ		○		
20	シジュウカラ	○	○	○	○
21	ツバメ	○	○	○	
22	ヒヨドリ	○	○	○	○
23	メジロ	○		○	
24	ムクドリ	○	○		
25	ツグミ	○			
26	スズメ	○	○	○	○
27	ハクセキレイ	○	○	○	○
28	カララヒワ	○	○	○	○
29	アオジ	○			○
30	ドバト	○	○		○
合計	30 種	24 種	20 種	22 種	22 種
		26 種		26 種	

表 9 前回調査との比較：船上センサス結果（春季）

No.	種名	調査時期			
		第 6 回 (R2~R3)		第 7 回 (R3~R4)	
		春季(4月)		春季(4月)	
		東島	西島	東島	西島
1	カルガモ	10	9	14	15
2	スズガモ	0	0	9	0
3	カンムリカイツブリ	0	0	2	0
4	カワウ	162	31	115	40
5	アオサギ	4	1	5	6
6	ダイサギ	0	1	0	0
7	オオバン	4	0	0	0
8	イソシギ	1	1	1	0
9	ユリカモメ	1	0	0	0
10	ウミネコ	0	0	2	0
11	ハシブトガラス	0	3	2	2
12	シジュウカラ	0	2	1	3
13	ツバメ	3	0	0	0
14	ヒヨドリ	1	1	0	0
15	カララヒワ	0	0	0	1
合計個体数		186	49	151	67
合計島別種数		8 種	8 種	9 種	6 種
合計種数		11 種		10 種	

表 10 前回調査との比較：ラインセンサス結果（春季）

No.	種名	調査時期							
		第 6 回 (R2~R3)				第 7 回 (R3~R4)			
		春季 (4 月)				春季 (4 月)			
		L1 (東島)		L2 (西島)		L1 (東島)		L2 (西島)	
		個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度
1	カルガモ	3	2%	4	9%	1	1%	6	7%
2	キジバト	1	1%	0	0%	0	0%	0	0%
3	カワウ	117	79%	18	42%	73	85%	44	50%
4	ダイサギ	0	0%	0	0%	1	1%	0	0%
5	オオバン	3	2%	0	0%	0	0%	0	0%
6	イソシギ	1	1%	2	5%	0	0%	0	0%
7	ユリカモメ	0	0%	3	7%	0	0%	0	0%
8	ウミネコ	0	0%	1	2%	0	0%	2	2%
9	ハシブトガラス	3	2%	1	2%	2	2%	2	2%
10	ヤマガラ	0	0%	1	2%	0	0%	0	0%
11	シジュウカラ	2	1%	2	5%	2	2%	0	0%
12	ツバメ	4	3%	0	0%	0	0%	0	0%
13	ヒヨドリ	10	7%	1	2%	0	0%	0	0%
14	スズメ	0	0%	1	2%	1	1%	2	2%
15	カワラヒワ	2	1%	9	21%	6	7%	31	35%
16	アオジ	2	1%	0	0%	0	0%	1	1%
合計	16 種	148	100%	43	100%	86	100%	88	100%
		11 種		11 種		7 種		7 種	

表 11 前回調査との比較：定点観察結果（春季）

No.	種名	調査時期															
		第 6 回 (R2~R3)								第 7 回 (R3~R4)							
		春季 (4 月)								春季 (4 月)							
		東島				西島				東島				西島			
		P1		P2		P3		P4		P1		P2		P3		P4	
		個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度
1	カルガモ	5	5%	4	4%	3	6%	4	10%	2	11%	0	0%	12	18%	10	10%
2	スズガモ	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	1	6%	0	0%	0	0%	0	0%
3	キジバト	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	1	6%	1	2%	0	0%
4	カワウ	81	76%	63	58%	20	39%	19	45%	2	11%	3	18%	37	57%	53	54%
5	アオサギ	3	3%	0	0%	0	0%	0	0%	2	11%	0	0%	4	6%	1	1%
6	ダイサギ	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	1	6%	0	0%	0	0%
7	コサギ	1	1%	1	1%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
8	オオバン	0	0%	3	3%	4	8%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
9	コチドリ	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	1	6%	0	0%	0	0%	3	3%
10	イソシギ	1	1%	1	1%	3	6%	1	2%	1	6%	1	6%	2	3%	0	0%
11	キョウジョシギ	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	5	5%
12	ユリカモメ	0	0%	1	1%	4	8%	6	14%	2	11%	5	29%	0	0%	6	6%
13	ウミネコ	0	0%	0	0%	0	0%	3	7%	2	11%	0	0%	0	0%	2	2%
14	セグロカモメ	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	2	12%	0	0%	0	0%
15	ハシブトガラス	3	3%	2	2%	1	2%	3	7%	2	11%	0	0%	1	2%	1	1%
16	シジュウカラ	0	0%	1	1%	1	2%	0	0%	1	6%	2	12%	2	3%	0	0%
17	ツバメ	4	4%	3	3%	3	6%	3	7%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
18	ヒヨドリ	7	7%	16	15%	7	14%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
19	ムクドリ	0	0%	10	9%	3	6%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
20	スズメ	0	0%	0	0%	0	0%	2	5%	0	0%	2	12%	1	2%	0	0%
21	ハクセキレイ	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	1	1%
22	カワラヒワ	2	2%	3	3%	2	4%	1	2%	2	11%	0	0%	4	6%	16	16%
23	アオジ	0	0%	1	1%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
24	ドバト	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	1	2%	0	0%
合計	24 種	107	100%	109	100%	51	100%	42	100%	18	100%	17	100%	65	100%	98	100%
		9 種		13 種		11 種		9 種		10 種		7 種		10 種		10 種	

表 12 (1) 鳥類確認種目録 (第 1 回～第 7 回)

No.	種名	調査時期													
		第 1 回 (H27 夏～ H28 春)		第 2 回 (H28 秋～ H29 夏)		第 3 回 (H29 秋～ H30 夏)		第 4 回 (H30 秋～ H31/R1 夏)		第 5 回 (R1 秋～R2 夏)		第 6 回 (R2 秋～R3 夏)		第 7 回 (R3 秋～R4 夏)	
		東 島	西 島	東 島	西 島	東 島	西 島	東 島	西 島	東 島	西 島	東 島	西 島	東 島	西 島
1	オカヨシガモ				○		○		○	○					
2	ヒドリガモ									○	○			○	
3	マガモ		○	○	○		○	○	○						
4	カルガモ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
5	ハシビロガモ											○	○	○	
6	オナガガモ				○	○	○			○			○		
7	コガモ							○					○		
8	ホシハジロ						○	○		○	○	○		○	
9	キンクロハジロ										○				
10	スズガモ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
11	ホオジロガモ												○		
12	ウミアイサ		○					○	○	○		○	○		
13	カンムリカイツブリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
14	ミミカイツブリ			○								○			
15	ハジロカイツブリ	○	○	○	○				○	○	○	○	○	○	
16	キジバト	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
17	カワウ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
18	ゴイサギ					○									
19	ササゴイ		○												
20	アオサギ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
21	ダイサギ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
22	チュウサギ									○					
23	コサギ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
24	オオバン	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
25	カッコウ科の一種											○			
26	コチドリ	○	○		○	○	○			○	○	○		○	
27	ヤマシギ												●		
28	タシギ								○						
29	チュウシャクシギ													○	
30	キアシシギ									○					
31	イソシギ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
32	キョウジョシギ					○	○							○	
33	ユリカモメ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
34	ウミネコ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
35	カモメ	○	○			○									
36	セグロカモメ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
37	オオセグロカモメ	○	○	○	○	○	○				○		○	○	
38	コアジサシ	○	○	○	○	○	○		○						
39	ミサゴ	○		○			○		○		○	○			
40	ハチクマ	○													

表 12 (2) 鳥類確認種目録 (第 1 回～第 7 回)

No.	種名	調査時期													
		第 1 回 (H27 夏～ H28 春)		第 2 回 (H28 秋～ H29 夏)		第 3 回 (H29 秋～ H30 夏)		第 4 回 (H30 秋～ H31/R1 夏)		第 5 回 (R1 秋～R2 夏)		第 6 回 (R2 秋～R3 夏)		第 7 回 (R3 秋～R4 夏)	
		東 島	西 島	東 島	西 島	東 島	西 島	東 島	西 島	東 島	西 島	東 島	西 島	東 島	西 島
41	トビ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
42	ハイタカ		○		○					○					
43	オオタカ	○		○	○	○	○		○		●	○	●		●
44	ノスリ		○	○	○	○		○		○		○	○	○	○
45	オオコノハズク														●
46	カワセミ			○			○			○		○		○	
47	チョウゲンボウ		○				○	○							
48	ハヤブサ			○	○	○	○	○	○						○
49	モズ			○	○	○	○	○	○	○	○			○	
50	カケス				○										
51	オナガ			○	○	○	○			○					
52	ハシブトガラス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
53	ヤマガラ											○			
54	シジュウカラ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
55	ヒバリ						○								
56	ツバメ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
57	ヒヨドリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
58	ウグイス	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○
59	オオムシクイ								○				○		
60	メジロ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○
61	オオヨシキリ			○		○				○	○	○			
62	ムクドリ	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○
63	コムクドリ				○	○									
64	シロハラ	○	○	○	○						●		○	○	○
65	アカハラ	○			○			○			○				
66	ツグミ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
67	ジョウビタキ	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
68	イソヒヨドリ	○	○		○		○		○		○		○	○	○
69	キビタキ	○				○									
70	スズメ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
71	キセキレイ			○											
72	ハクセキレイ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
73	セグロセキレイ				○								○		
74	タヒバリ						○				○				
75	カララヒフ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
76	シメ							○				○			
77	ホオジロ	○		○	○			○		○					
78	アオジ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
79	オオジュリン			○						○					
80	ドバト	○	○					○			○	○	○		○
合計	80 種	41 種	40 種	44 種	47 種	42 種	45 種	38 種	38 種	44 種	41 種	40 種	38 種	40 種	40 種
		47 種		53 種		51 種		47 種		52 種		48 種		48 種	

注 1. ●:自動撮影カメラのみで確認された種を示す。



カルガモ



スズガモ(重要種)



カンムリカイツブリ(重要種)



カワウ



アオサギ



コサギ(重要種)



コチドリ(重要種)



チュウシャクシギ(重要種)

写真 2(1) 鳥の島で確認された主な鳥類



イソシギ(重要種)



キョウジョシギ(重要種)



ユリカモメ



トビ(重要種)



ハシブトガラス



シジュウカラ



ヒヨドリ



カワラヒワ

写真 2(2) 鳥の島で確認された主な鳥類

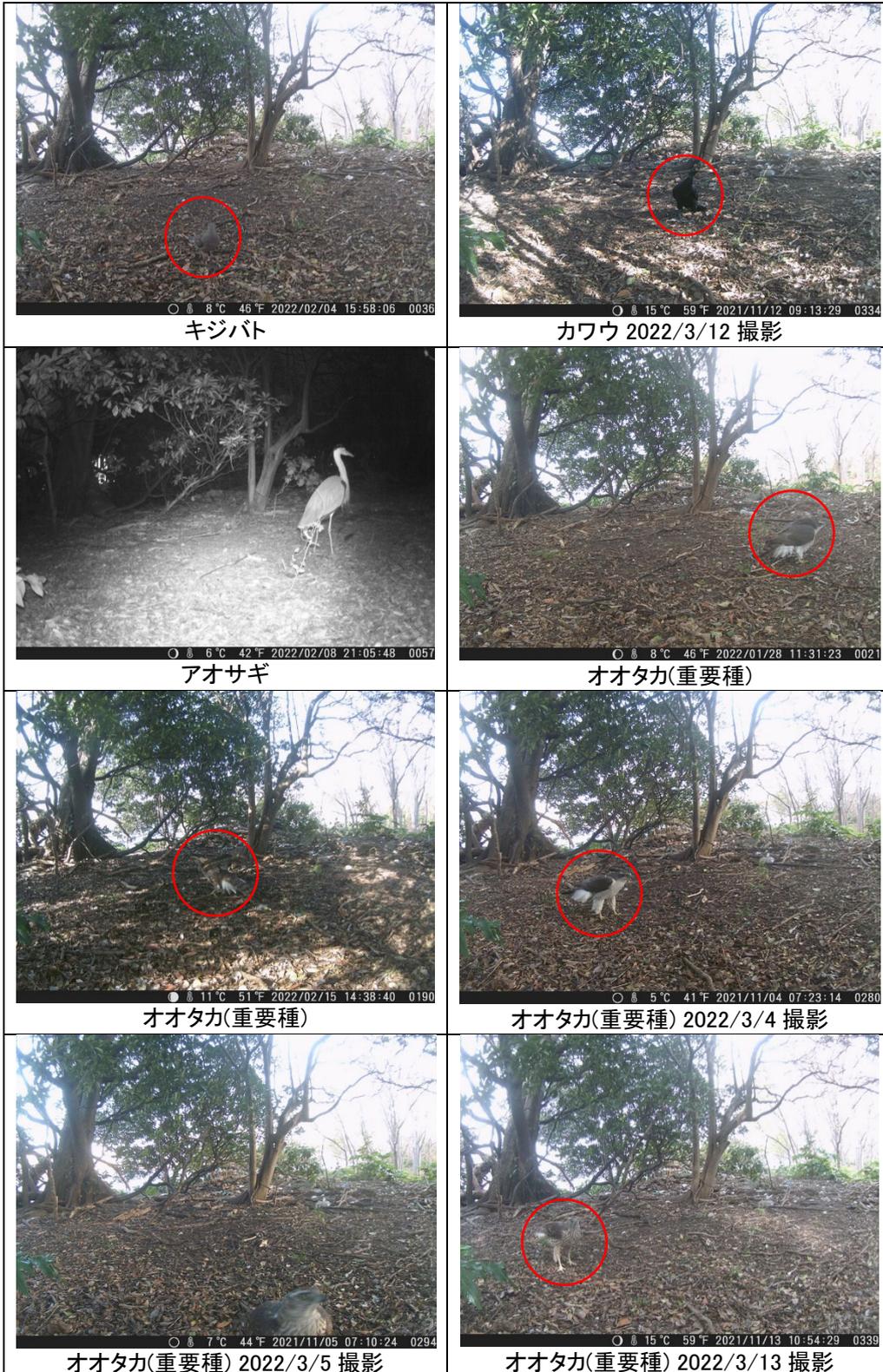


写真 3(1) 自動撮影カメラで確認された生き物

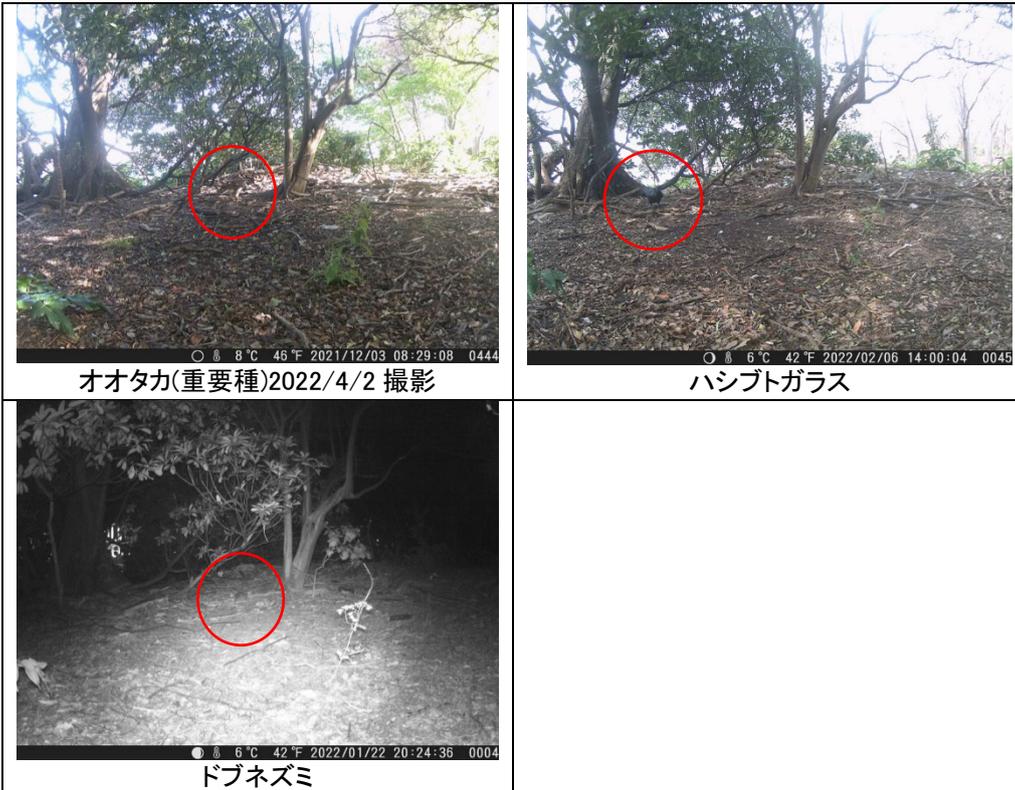


写真 3(2) 自動撮影カメラで確認された生き物



写真 4 任意踏査で確認された鳥類以外の生き物